

博士(人間科学)学位論文 概要書

# 同化行動の理論と実証研究

1997年7月

早稲田大学大学院人間科学研究科

内藤 哲雄



[要 旨] 本論文の一連研究は、成人の社会行動における無意図的模倣の役割に注目することから出発した。そして文献研究によって、発達初期に普遍的に発現し、成人でも観察される無意図的な模倣行動が、発達にともないどのように変容していくのかを考察し、新たに「同化行動」の理論を構築した。実証方法としては、子どもを対象とした発達臨床での症例研究と、成人を対象とした実験研究が採用され、それぞれの結果に基づいて「統合モデル」が提唱された。

第1章<戸川の「適応欲求」と「無目的行動」>戸川の「同調行動」と「適応行動」の概念規定を吟味することで、発達の視点を導入して無意図的模倣の理論を再構築し、実証研究を展開することの意義が明らかにされた。

第2章<模倣研究と無意図的模倣>模倣をとりまく諸研究として、社会的学習理論、同調行動、社会的促進、没個性化などを取り上げて比較論考した。これに基づいて、成人の社会的行動においても、無意図的な模倣が重要な役割を果たしていることが確認された。

第3章<模倣の種類と発達のアプローチ>ネズミなどの下等動物から人間に至るまでの模倣研究を整理することで、人間においては、発達初期段階に焦点をあて模倣機制的変容を研究する必要性が明らかにされた。

第4章<模倣と対人関係>発達初期段階での、模倣行動の側面と愛着行動の側面との比較対照によって、感覚運動期が終わる3歳頃までは、模倣も愛着（接着）もともに発達し変容するが、いずれも無意図的なものとして発現することが明らかにされた。

第5章<同化行動の理論と発達の展開>比較行動学などの理論や知見に基づいて、同化行動の定義がなされた。同化行動とは、ほぼ感覚運動期に生起する機制であり、モデルの動機・感情や状況の社会的意味への配慮のない、すなわち「社会的意識性」を欠く無意図的な行動である。この機制の2側面である身体的接着と無意図的模倣は表裏の関係にあり、それぞれが発達にともない分離、変容する。そして、成人においても、無意識の機制が支配的となり社会的意識性が機能しない事態では、生起することが示唆された。

第6章<同化行動の発達の展開>同化行動の発達の變容過程の各側面について、筆者自身が療育に従事した、自閉性障害児、精神発達遅滞をもつ遺糞症児、情緒障害児、性的及び非行の社会化の行動

問題の症例を用いて検討した。そしてそれぞれの結果に基づいて、変容過程の詳細が吟味された。

第7章<成人における同化行動>無意識の機制が支配的となり社会的意識性が欠如する事態として、恐怖条件、注意他在条件、モデルへの注意狭窄条件を取り上げ、成人においても同化行動が生起することを実験的に検討した。これらの結果に基づいて、最新の社会心理学の理論や知見とも関連づけながら、成人の同化行動の特徴について論考された。

第8章<結論>本研究の一連の成果を図式的な統合モデルにまとめるとともに (Figure 1 参照)、残された課題として、相互促進の効果、モデルの人数の効果、モデルの注目される条件、があげられた。

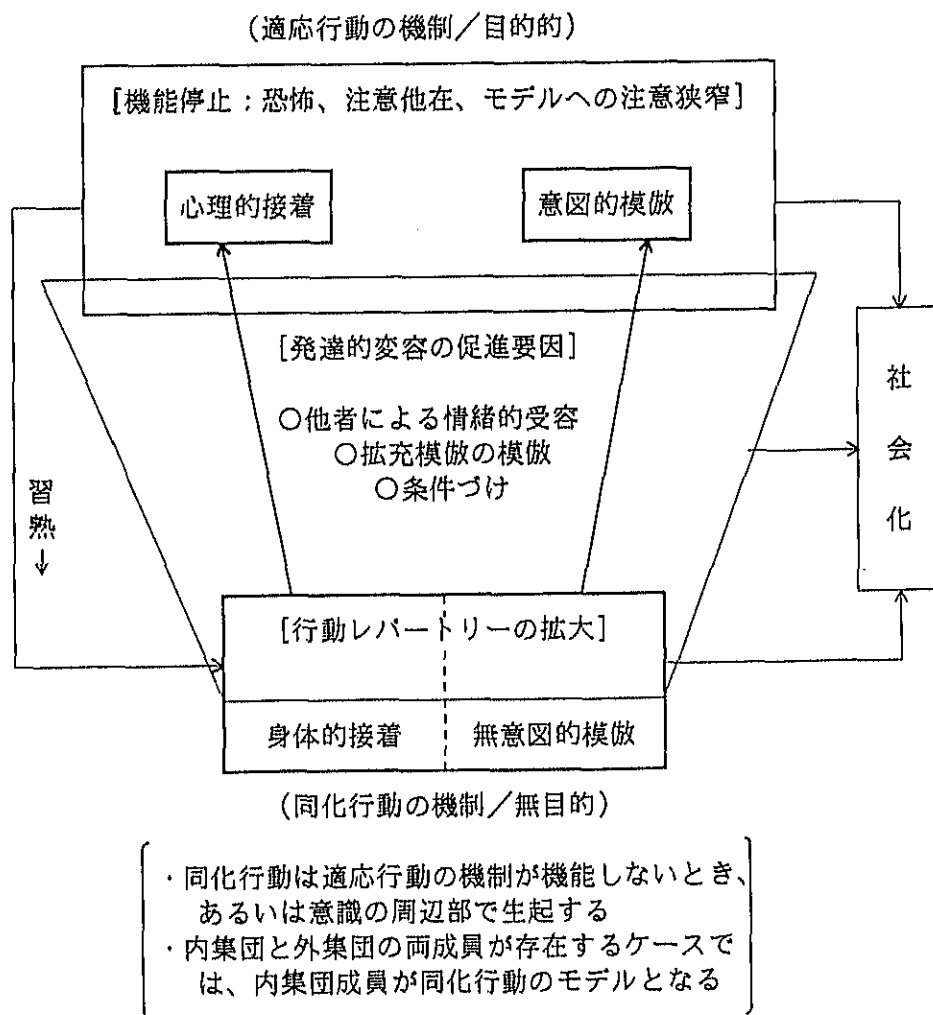


Figure 1 同化行動から適応行動への発達的変容と成人における両機制の役割